

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年8月9日
【四半期会計期間】	第56期第1四半期（自平成24年4月1日至平成24年6月30日）
【会社名】	石垣食品株式会社
【英訳名】	ISHIGAKI FOODS CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 石垣 裕義
【本店の所在の場所】	東京都千代田区九段北1丁目9番12号
【電話番号】	03 - 3263 - 4444
【事務連絡者氏名】	経理部経理課課長 小西 一幸
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区九段北1丁目9番12号
【電話番号】	03 - 3263 - 4444
【事務連絡者氏名】	経理部経理課課長 小西 一幸
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜1丁目8番16号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第55期第1四半期 連結累計期間	第56期第1四半期 連結累計期間	第55期
会計期間	自平成23年4月1日 至平成23年6月30日	自平成24年4月1日 至平成24年6月30日	自平成23年4月1日 至平成24年3月31日
売上高(百万円)	158	199	575
経常損益(百万円)	5	13	7
四半期(当期)純損益(百万円)	5	12	5
四半期包括利益又は包括利益(百万円)	6	14	6
純資産額(百万円)	360	374	359
総資産額(百万円)	454	490	440
1株当たり四半期(当期)純損益金額(円)	1.69	3.61	1.65
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	79.3	76.3	81.6

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には消費税等は含まれておりません。

3. 副産物の売却収入は、従来、営業外収益の「雑収入」に含めて表示しておりましたが、前連結会計年度(第55期)から「売上高」に含めて表示することに変更したため、第55期第1四半期連結累計期間については、当該表示方法の変更を反映した遡及修正後の数値を記載しております。

4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期累計期間において、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更があった事項は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

当社グループは、前々連結会計年度まで6期連続して営業損失、経常損失及び当期純損失を計上していることから、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しておりました。

当社グループは、当該状況を解消すべく、不採算事業・工場・子会社の廃止・統廃合、不動産売却、有利子負債の完済、組織簡素化、人件費等経費の圧縮等を行う一方、営業力・商品開発力の強化を実施し、事業体質の改善を図ってまいりました。また平成22年6月に株式会社神戸物産と資本提携及び業務提携を締結し、安定的な販路が確保されたほか、第三者割当増資により財政状態が改善いたしました。その結果、前連結会計年度において、営業利益5百万円、経常利益7百万円、当期純利益5百万円を計上いたしました。

また、当第1四半期累計期間においても、ビーフジャーキーが堅調に伸長を続けているほか、商品開発力強化の成果であるごぼう茶が大幅に伸長し、当社の新たな主力商品として定着しつつあることから、赤字体質から脱して着実に黒字を計上できる体制が構築できたものと考えております。

以上により当社グループは、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況は解消されたと判断しております。

なお、当第1四半期累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

（1）経営成績の分析

当第1四半期連結累計期間における当社グループの連結業績は、飲料事業、珍味事業とも大幅な増収増益を記録し、売上高199百万円（前年同四半期比25.9%増）、営業利益15百万円（前年同四半期比163.8%増）、経常利益13百万円（前年同四半期比132.6%増）、四半期純利益12百万円（前年同四半期比114.4%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

飲料事業

主力の麦茶が、近年の価格競争激化が続いたことに加え、春の天候不順が春夏商戦の立ち上がりを鈍くしたことから減収となったものの、ごぼう茶がマスコミ報道等の影響を受けて、原料調達が間に合わず出荷調整を行う程の大幅な伸長となり、麦茶の減収を補って余りある増収となったことから、飲料事業全体では売上高109百万円（前年同四半期比32.4%増）となりました。

また損益面でも、麦茶の販売促進費は増加したものの、ごぼう茶は新製品で引き合いが強いため販売促進費の負担が軽く、また、固定費負担や工場稼働率の面においても、麦茶の不調をごぼう茶の好調が補う形となったことから、営業利益21百万円（前年同四半期比97.7%増）と大幅な増益になりました。

珍味事業

ビーフジャーキーについて、自社ブランド品の販売が堅調なことに加え、OEMが、小容量の駄菓子向けOEMが引き続き好調で供給量を大きく伸ばしていることや、新規供給先の珍味メーカーを開拓したことから、売上高88百万円（前年同四半期比31.1%増）となりました。

損益面では、中国生産子会社における人件費や原料価格が高騰する等のマイナス要因があったものの、売上好調に伴う稼働率増加がプラス要因となったほか、純輸入事業であるため円高も仕入価格の抑制に働いたことから、営業利益15百万円（前年同四半期比34.3%増）となりました。

その他

業務用ナルトとだしのもとは堅調な売上を確保しているものの、業務用乾燥野菜の受注が昨夏以降なくなっていることから、売上高1百万円（前年同四半期比76.8%減）となりました。

損益面では、売上高の減少に伴って減収となったものの、生産を外部委託している事業である為、固定費負担も軽く、着実な利益をあげられることから営業利益0百万円（前年同四半期比52.8%減）となりました。

（2）財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末における財政状態は、季節変動の大きい麦茶に関連する売掛債権と買掛債務の増加に伴い、総資産は490百万円（前連結会計年度末は440百万円）、負債は116百万円（前連結会計年度末は80百万円）となりました。純資産は374百万円（前連結会計年度末は359百万円）となり、自己資本比率は76.3%（前連結会計年度末は81.6%）となりました。

（3）事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

（4）研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、3百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,000,000
計	8,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年8月9日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	3,390,000	3,390,000	大阪証券取引所 JASDAQ(スタンダード)	単元株式数1,000株
計	3,390,000	3,390,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高 (千株)	資本金増減 額(千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成24年4月1日～ 平成24年6月30日(注)	-	3,390	162,750	300,000	328,450	-

(注) 資本金及び資本準備金の減少は、欠損填補によるものであります。

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成23年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成24年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,386,000	3,386	-
単元未満株式	普通株式 3,000	-	1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	3,390,000	-	-
総株主の議決権	-	3,386	-

【自己株式等】

平成24年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
石垣食品株式会社	東京都千代田区九段北1丁目9番12号	1,000	-	1,000	0.03
計	-	1,000	-	1,000	0.03

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、東陽監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	105,000	92,237
受取手形及び売掛金	101,480	162,211
商品及び製品	45,333	43,292
原材料及び貯蔵品	17,761	22,504
その他	3,040	3,561
貸倒引当金	0	0
流動資産合計	272,617	323,806
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	60,147	59,091
機械装置及び運搬具(純額)	14,074	13,759
土地	47,780	47,780
リース資産(純額)	1,426	1,069
建設仮勘定	-	1,940
その他(純額)	2,196	2,146
有形固定資産合計	125,625	125,788
無形固定資産		
リース資産	5,161	3,871
その他	14,619	15,268
無形固定資産合計	19,780	19,139
投資その他の資産		
投資有価証券	15,657	15,270
その他	6,595	6,568
投資その他の資産合計	22,253	21,838
固定資産合計	167,659	166,766
資産合計	440,276	490,573

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	39,965	67,514
リース債務	6,917	5,188
未払法人税等	2,671	2,743
賞与引当金	2,155	897
未払金	19,577	29,296
その他	8,136	9,408
流動負債合計	79,424	115,048
固定負債		
繰延税金負債	1,410	1,272
固定負債合計	1,410	1,272
負債合計	80,835	116,321
純資産の部		
株主資本		
資本金	462,750	300,000
資本剰余金	328,450	53,293
利益剰余金	416,012	34,136
自己株式	782	782
株主資本合計	374,404	386,647
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,548	2,298
為替換算調整勘定	17,511	14,694
その他の包括利益累計額合計	14,963	12,396
純資産合計	359,441	374,251
負債純資産合計	440,276	490,573

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
売上高	158,197	199,213
売上原価	91,227	113,247
売上総利益	66,969	85,966
販売費及び一般管理費	61,056	70,364
営業利益	5,913	15,601
営業外収益		
受取利息	9	34
受取配当金	164	178
雑収入	413	0
営業外収益合計	587	213
営業外費用		
為替差損	639	2,075
雑損失	7	122
営業外費用合計	647	2,198
経常利益	5,854	13,617
税金等調整前四半期純利益	5,854	13,617
法人税、住民税及び事業税	145	1,374
法人税等合計	145	1,374
少数株主損益調整前四半期純利益	5,709	12,242
四半期純利益	5,709	12,242

【四半期連結包括利益計算書】
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	5,709	12,242
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	87	249
為替換算調整勘定	1,067	2,816
その他の包括利益合計	1,155	2,567
四半期包括利益	6,864	14,809
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,864	14,809
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【会計方針の変更】

(減価償却方法の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これによる損益に与える影響はありません。

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
減価償却費	4,529千円	3,858千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

1. 配当に関する事項
該当事項はありません。
2. 株主資本の金額の著しい変動
該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

1. 配当に関する事項
該当事項はありません。
2. 株主資本の金額の著しい変動

当社は平成24年6月28日付で、欠損填補のため、資本金、資本準備金及び利益準備金の額の減少並びに剰余金の処分を行っております。この結果、当第1四半期連結会計期間末における資本金が300,000千円、資本剰余金が53,293千円、利益剰余金が34,136千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書計上額
	飲料事業	珍味事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	82,336	67,267	149,604	8,592	158,197	-	158,197
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	82,336	67,267	149,604	8,592	158,197	-	158,197
セグメント利益	10,837	11,845	22,682	1,067	23,750	17,836	5,913

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、乾燥野菜事業、ナルト事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額 17,836千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用17,836千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書計上額
	飲料事業	珍味事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	109,046	88,176	197,223	1,990	199,213	-	199,213
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	109,046	88,176	197,223	1,990	199,213	-	199,213
セグメント利益	21,430	15,910	37,341	503	37,844	22,242	15,601

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、乾燥野菜事業、ナルト事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額 22,242千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用22,242千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	1円69銭	3円61銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	5,709	12,242
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	5,709	12,242
普通株式の期中平均株式数(株)	3,388,221	3,388,221

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年 8月 8日

石垣食品株式会社
取締役会 御中

東陽監査法人

指定社員 公認会計士 村本 泰雄 印
業務執行社員

指定社員 公認会計士 森口 博敏 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている石垣食品株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、石垣食品株式会社及び連結子会社の平成24年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれておりません。